

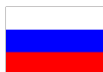
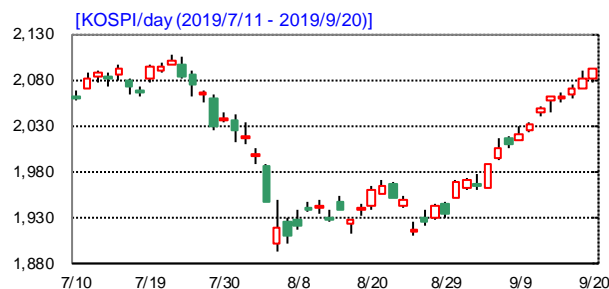


【韓国】 総合指数は 2.1%高と 5 週続伸、終値で 2 カ月ぶり高値を更新

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 2.1%高と 5 週続伸。20 日までの 11 日連騰で同日の終値が 2091.52 ポイントとなり、7 月 23 日以来ほぼ 2 カ月ぶりの高値を更新した。欧州中央銀行（ECB）や米連邦準備理事会（FRB）をはじめ、各国の中央銀行による金融緩和を背景に、投資家のリスク選好姿勢が強まった。半導体メモリーの需要が回復しているとの見方から主力のハイテク株が買われ、相場の上昇を主導。対日関係の悪化に対する警戒感はいくすぶっているものの、日本政府が世界貿易機関（WTO）を通じた 2 国間協議に応じる構えをみせ、買い安心感につながった。今週は節目の 2100 ポイントを試す展開か。米国と中国が 19 日、通商問題を巡る次官級協議をワシントンで始めており、交渉の進展に対する期待が高まりそうだ。

▼指数チャート

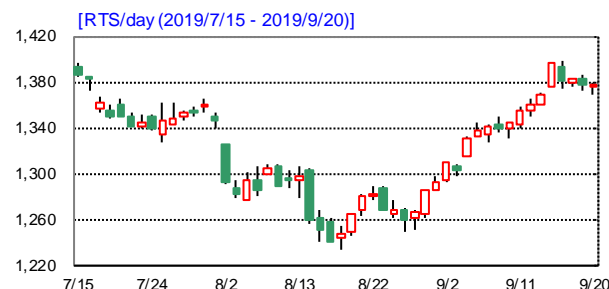


【ロシア】 RTS 指数は週間で 0.6%高と 5 週続伸、今週は原油高一服で売り優勢か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 0.6%高と 5 週続伸。今月 14 日にサウジアラビアの石油関連施設が爆撃された影響で原油価格が急騰し、エネルギー株主導で指数は上昇した。週明け 16 日は原油相場が一時的に 2 桁高となったことでロシネフチなどのエネルギー株が軒並み買われ、指数は前営業日比 2.0%高と大きく上昇した。その後は中東情勢がやや落ち着きを取り戻し、サウジのアブドルアジズ・エネルギー相が 9 月末までに同国の産油量が攻撃前の水準に戻るとの見方を示すと、供給不安が後退。原油やエネルギー株が反落し、RTS 指数も上昇幅を縮めた。個別銘柄では、天然ガスのノバテック（5.4%高）、石油のロスネフチ（4.5%高）、ルクオイル（2.1%高）などの上昇が指数を押し上げた。今週は原油高一服を受け、売り優勢の展開か。

▼指数チャート



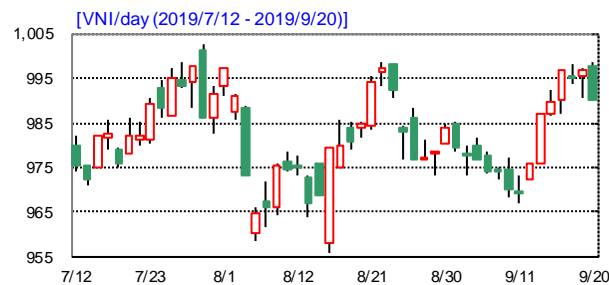
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 0.3%高と続伸、今週は利益確定売りで軟調推移か

移か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.3%高と続伸。中央銀行による利下げを好感した買いが続き、一時約 1 カ月ぶりの高値をつけた。週前半は地政学リスクの高まりや低調な中国の経済指標といったネガティブな材料があったものの、ベトナム国家銀行による利下げを好感する流れが続き、相場を押し上げた。指数は 17 日まで 4 営業日続伸。その後は小動きとなったが、20 日は 998.56 ポイントまで上昇し、約 1 カ月ぶりの高値を更新した。ただ、その後は米国がイランを非難し、「臨戦態勢」をとると表明した影響で地政学リスクへの警戒感から反落し、990.36 ポイントで終了した。個別銘柄では、マッサングループ（4.8%高）、ビンホームズ（1.8%高）、ピナミルク（1.7%高）の上昇が指数を押し上げた。今週は利益確定売りが強まり、軟調な展開か。

▼指数チャート

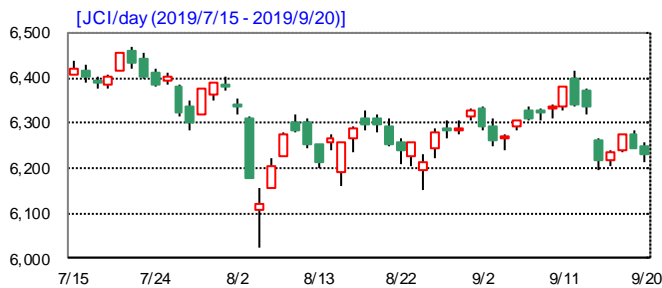


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.6%安、たばこ税の引き上げ発表を嫌気

ジャカルタ総合指数は週間で 1.6%安と反落。週初の下落が指数を押し下げた。16日は8月の輸出額が前年同月比 10.0%減と市場予想から下振れした上、前週末に政府が 20年1月からたばこ税を 23%引き上げると発表した影響で関連銘柄が急落し、指数は前営業日比 1.8%安と 3日続落。その後は反動で 18日まで続伸したが、19日は中央銀行が政策金利を 3会合連続で引き下げて 5.25%に設定したものの買い材料視されず、3日ぶりに反落すると、20日も景気減速への警戒感で売り優勢の展開となり、続落して取引を終えた。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が指数を左右する展開になりそうだ。

▼指数チャート

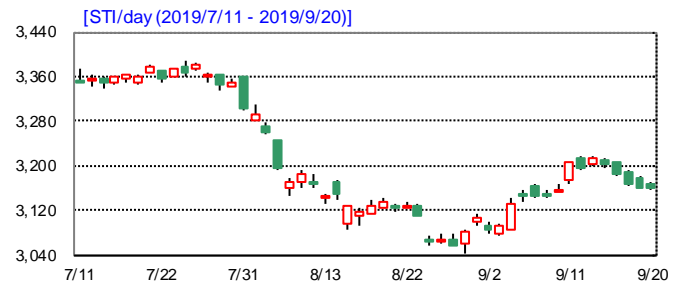


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.6%安、今週は 26日に8月の鉱工業生産発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.6%安と 3週ぶりに反落。さえない値動きが続き、じりじりと下値を広げた。週初の 16日に反落すると、17日は8月の非石油地場輸出が前年同月比 8.9%減と 6カ月連続で前年の水準を下回った影響で続落。18日は米 FOMC 後の声明発表を控えた様子見で金融株を中心に売られた。19日は前日に米国で追加利下げが決定されたものの買い材料にならず 4日続落したが、20日は小幅に反発して引けている。今週は 23日の8月の CPI に続き、26日には同月の鉱工業生産が発表される予定。前月まで 5カ月連続の前年割れだった鉱工業生産が増加に転じれば株式相場の支援材料になる。

▼指数チャート

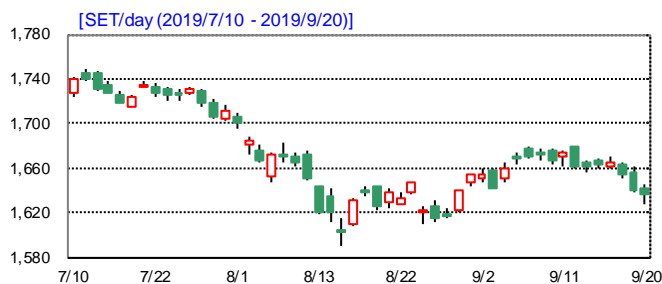


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.5%安、原油価格の乱高下に運動

SET 指数は週間で 1.5%安と続落。原油価格の乱高下に左右された 1週間だった。週初の 16日はエネルギー株が指数上昇をけん引。前週末にサウジアラビアの石油施設が攻撃され、原油価格の大幅な値上がりを受けてエネルギー株が買われた。17日まで 3営業日続伸したが、18日は原油価格が一転して下落し、指数も反落した。その後も軟調な値動きが続き、20日は8月の輸出額（通関ベース）が前年同月比 4.0%減と市場予想から下振れたことも売り材料となり、約 3週間ぶりの安値を更新して引けた。今週は 24日の8月の鉱工業生産発表に続き、25日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

▼指数チャート

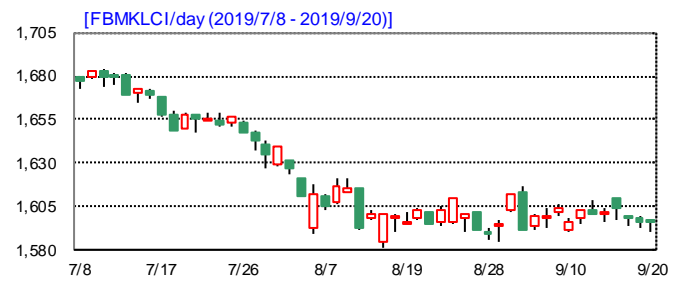


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.2%安、今週は 1600ポイント回復に期待

クアラルンプール総合指数は 4日間の取引で 0.2%安と 3週続落。小幅なレンジでもみ合いが続いた。連休明けの 17日は、原油価格の上昇を受けてペトロナス系 3社が買われ続伸してスタート。一方、18日はサウジアラビアが早期に原油生産が回復するとの見通しを発表したことで価格が下落し、指数は終値ベースで節目の 1600ポイントを割り込んだ。19日は為替相場で米ドル高リング安が進んだ上、パーム油価格の下落がプランテーション株に対する売り材料となり続落したが、20日は引け際に金融株の一角が買われた効果で 3日ぶりに小幅反発して引けている。今週は 25日に8月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。